

つたえる つながる 高め合う授業づくり
～自ら問いを持ち続け、見方・考え方を深める社会科学習～

- 1 日時 平成29年6月7日（水）、10月11日（水）
- 2 場所 琴浦町立聖郷小学校
- 3 講師 島根大学大学院 教授 加藤寿朗 先生
- 4 研修内容



来年度、鳥取県小学校教育研究会社会科研究大会並びに中部小学校教育研究会社会科研究大会の会場校となる聖郷小学校で2回の授業研究会を開催した。小学校社会科学習の研究者としてご活躍中の加藤先生に指導助言をいただき、次期学習指導要領の改訂ポイントや社会科を通して育てたい子どもの姿、単元構想の工夫や授業のありかた等を研修した。

1日目は、第3学年「わたしのまち みんなのまち ～ことうら町のようす～」の授業研究会を通して以下の4点を学んだ。

① 次期学習指導要領について

今は「教育課程の過渡期」であるが、子どもの「めざす姿」は変わらない。社会科を学習して、「地元が大好きな子」「町、県、国をよりよくしていこうとする子」を育てたい。学習指導要領にある「社会的な見方・考え方」を身につけるために「比較する」「関連づける」「総合的に考える」ことを大事にして授業をつくるのが大切。

② 授業について

この単元のめあては「地域の地理的環境」をおさえること。おさえどころは次の3つ。一つ目は特色ある地形、公共施設などはたらき、交通の様子。二つ目は場所によって違うこと（場所的相違）、比較。三つ目はその違いは、どんな理由で生まれるのか、地形条件か、社会的条件か。これらをおさえることが大事。次期学習指導要領では、地図帳を3年で持つようになる。

「学校のまわり」の内容がへり、「市（町）」の学習に重点が置かれる。

③ 研究主題について

聖郷小の研究主題は、次期指導要領の「問い」「見方・考え方」などをおさえている。「主体的・対話的で深い学び」を社会科では「世の中のことを自分のこととして考える。でも一人よがりではない。」「町のこと、県のこと、世の中のことをうんと考える。」学びのことである。



④ 地域教材では「この町の問題解決の知恵に学ぶ」こと

地域教材は、今後、より大事になる。自分の町を勉強する・学ぶ地域教材を開発したい。具体的に、本時の学習と次期学習指導要領で求められる授業づくりを関連づけてご指導いただくことができた。特に地域教材を多く扱う3年生での学習内容について理解が深まった。また、社会科という学習は将来よりよい町づくり、国づくりの素地を培う教科だと改めて認

識することができた。

2日目は、第6学年社会科「明治の国づくりを進めた人々」の授業研究会を通してご指導いただき、以下の4点を学ぶことができた。

① よい授業づくりとは

予定された指導案の本時は、学習過程の3から始まった。悩んだ末の指導案であり、伸びようとする教師の授業づくりだった。

② 新学習指導要領の内容の構造

指導要領のどの部分が「知識」、どの部分が「技能」、「思考力・判断力・表現力等」かなど、解説に分かりやすく書かれている。3～6年全て共通。今後、若手教員が急増する。だれでも読みやすい解説書になっている



③ 新学習指導要領との接点を感じた授業

(1) 本時の「大まかな歴史」とは

「地租改正」(安定した税収)→「殖産興業」(お金を基に官営工場)→「徴兵令」(強さ)の近代化の流れを理解すること。言葉を覚えただけでは意味がない。教科書は並列に書かれているが、この「→」の意味が意図されていた授業。授業者の意図が掲示物に表れていた。社会科には、教師の教材研究、教材解釈が重要。

(2) 学習問題に見える「多角的な思考」

5, 6年の目標に「多角的な思考」という言葉が入っているが立場性のこと。

「やめた方が…、続けた方が…」という問題は、ゆるやかにその立場に立たせる場面設定になっていた。対話的な学習につながる。対話をとおして考えは深まる。最終的には、「自分との対話」。授業後、本時で、考えの変化が見られた。

9名「迷っている」へ。授業によってかなり揺れた子どもたちの姿がわかる。

(3) 「歴史を学ぶ意味」

今回「歴史を学ぶ意味を考えること」があらためて示された。

「先人の問題解決の知恵に学ぶ」ことが意義。今、そして、これからの日本を考えるために歴史を学ぶ。どの単元でも「なぜ、今これを学習するのか」「なぜ、歴史を学ぶのか」教師自身は考えを持っておきたい。歴史上の人物、文化遺産、できごとを覚えることが歴史学習の目的ではない。



加藤先生による2回の研修を通して、社会科の学習を通して子どもをどう育てたいのかという目的を具体的にして授業をつくることの大切さや、単元を通してどんな知識を教えたいのか、何を学ばせたいのかを指導者が明確にもち、教材研究や教材解釈をしていくことが必要だと感じた。また、子どもたちの問いが生まれる資料や課題提示、問いから学習問題を導き出すことなど、問いを大事にすることが、子どもたちの主体的な学びにつながることを学んだ。来年度の研究発表大会に向けて、さらに研究を深め、よりよい授業づくりに取り組んでいきたい。